

# 日本ゴム精練工業会

## 設立25周年記念

1989～2014

# 設立25周年記念式典 式次第

日時：平成26年4月24日

場所：ヤマハリゾートつま恋

開会あいさつ 相澤 行 理事（エラストミックス東京営業所所長）

(17:00～)

会長あいさつ 金原良和 会長（シンコー社長）

乾 杯 上野和美 理事（ノブカワ社長）

新会長あいさつ 簾輪裕方 新会長（CRK社長）

ご歓談

祝 辞 稲垣幸一 様（ゴムタイムス社社長）

三井福次郎 様（三福工業社長）

寺崎正悦 様（寺崎ゴム工業会長）

中締め 秋山邦男 様（ポスティコーポレーション社長）

○司会 山本 誠 理事（ゼオンポリミクス社長）

「記念講演」

(15:30～16:30)

「ゴム資材の最新情報と

世界のゴム練り業界の話題」

加藤進一 様（加藤事務所社長）

## ごあいさつ

会長・新会長

### ゴム精練はゴム製品の源

金原 良和 会長  
シンコー株式会社



皆様、本日は大変お忙しい所、日本ゴム精練工業会設立25周年記念式典に御足労頂きました、誠にありがとうございます。我々会員企業は、精練を通じて日本のゴム産業に貢献することを目的とし、当初28社の有志企業と共に会を立ち上げ、現在の会員企業数は24社を数えております。

精練は全てのゴム製品の源であり、そこを介さないゴム製品は存在いたしません。我々は、その様な重要な部門に携わっているという事を、この機会に改めて思い起こし、弛まない技術とサービスの向上に努める事を、お誓い申し上げる次第でございます。

この25年間、日本経済は大変浮き沈みの大きい時期がありました。バブル景気時には、日本全体がお祭り騒ぎの如く活気に溢れ、この勢いが永遠に続くのではないかと錯覚を覚える程でした。し

かし、永遠に続く勢いなど存在いたしません。バブルが弾け、一気に暗闇の時代に突入し、あのリーマン・ショックがやってまいりました。この時期、一時25万トンあった練りの流通量も、半分程度まで落ち込み各企業が大変苦しい時代を過ごしたという事は、言うまでもありません。悪い話は、これだけで十分でした。

しかし、平成23年3月11日、日本にとって最悪な出来事が起こりました。東日本大震災です。多くの尊い命が犠牲になり、地域の産業は壊滅状態に陥りました。現在も、その復興が充分進まない状況を考えると、胸が詰まる思いでございます。しかし、明けない夜もございません。政治が比較的安定している今、徐々に経済の方も活気を取り戻しつつある様です。そして、大変嬉しかったのが、東京オリンピック・パラリンピックの誘致に成功した事。今後、日本経済は、それらに向かって更に上向くと信じております。勿論それでも、我々精練業界の心配事が無くなる訳ではありませんが、我々日本ゴム精練工業会は、我々を必要してくれる皆様の為に、これからも全力で頑張ってまいります。今後共、宜しくお願い申し上げます。

### より一層の地位向上を

簗輪 裕方 新会長  
CRK株式会社



今年度の日本ゴム精練工業会会長を務めさせて頂く簗輪です。25周年を迎えたこの会をさらに発展させるべく微力を尽くしたいと存じます。

日本ゴム精練工業会は設立の30年ほど前から親睦団体として後の関東CMB懇話会があり、その後関東ゴム練り懇話会へと発展し、さらに全国団体である日本ゴム精練工業会の発足につながった長い歴史があります。設立当初は30社でスタートし、32社まで会員会社が増加しましたが最近では23社まで減少し、現在は24社で構成されています。

昨年以来アベノミクスの効果で大企業の好調が伝えられていますが、業種によって差異はあるものの、我々中小企業には今年に入ってやっと影響が感じられるようになってきたようです。大震災

の復興事業や東京オリンピック・パラリンピックなど期待できそうな話題はありますが、需要先は海外移転が進みそれに伴う材料の現地調達など、引き続き苦しい事業環境には変わりありません。

そういう環境の中で我々日本ゴム精練工業会としては精練業界のレベルアップのため、協力して品質向上、環境保全に努め、海外企業との差別化を図る必要があります。またそれぞれの企業が抱える課題としては受注量の減少に加え、設備の老朽化、従業員の高齢化、若い経営者への技術伝承などがあります。これら課題の解決を図り、精練業界のより一層の地位向上を目指していきたいと存じます。

これまで環境・衛生問題等についての勉強会などをを行ってきましたが、当然のことながらコンプライアンスに関しては十分に配慮し、会員企業に今後必要とされる情報の発信を継続していく所存であります。

# 祝 辞

---

## 25周年に寄せて

### 28社で全国組織に築く

三井 福次郎 氏  
三福工業株式会社



1989年3月、消費税の3%導入に伴い、表示方法及び価格転換について業界として、表示カルテルを結び公正取引委員会に届け出ることにより受理されたのは3月8日でした。

この目的のために、日本ゴム精練工業会は設立を見たのであります。それまでは関東の数社でゴム練り懇話会で活動し、まだ全国組織にはなっておらず、有志での懇談会であったのを、消費税導入をきっかけに全国組織にすることになったわけです。

現在、各社が外税方式で請求や価格交渉をしておりますが、これは1989年の導入時における業界としての要望を届け出て、受理され現在まで継続しているからであります。

消費税が8%となつたいま、くしくも25周年を迎え、設立当初の目的を思い出すのは偶然とはいえ、感無量の感があります。

当初は全国組織にするために、上野さん（株式会社東武ゴムセンター）を主体として、それまでの関東ゴム練り懇話会の会員の皆様が各地の会社を訪ね精練工業会への参加をお願いして歩いた結果、設立時には28社が集まりスタート致しました。当時、その公正取引委員会への書類を含めたやり取りは秋永

さん（故人、株式会社フコク）を中心に若手が書類を作成、公取委への根回しをし、3月8日、君島会長（故人 三洋ゴム工業株式会社）を先頭に、株式会社信川護謨工業所など、それに実務を携わった、上野さん、秋永さん、三井で公正取引委員会へ出向きました。

公正取引委員会での受理要因で一番の難関は、会員各社全体で日本のコンパウンド事業の何十パーセントを網羅しているかありました。この数字が低い場合、その業界の外税方式が認められない恐れがあり、秋永さんを中心とした人達は、幾度かの打ち合せを重ね、日本におけるゴムコンパウンドの総量を予測、その中の会員企業の生産割合を算出することに苦労をしましたが、幸い関西も含め大手のコンパウンドメーカーさんが毎月、半年の資料を提供して頂いたので、それをもとに中小は聞き取り調査やアンケート用紙配布で数字を固めていき、公正取引委員会に提出した書類は、日本ゴム精練工業会会員会社で、日本のゴムコンパウンドの90%位を網羅しているという書類に仕上げたと記憶しております。しかし、社内練りをしているゴム関係会社も多く、それと外での精練事業の違いを公正取引委員会に説明、理解して頂くのが一番大変であったと記憶しております。

ゆえに10周年までは、そのようなことがあり、毎年アンケートを事務局で取り、各社のゴムコンパウンドの生産量把握をし、会員各社にはそれをフィードバックしておりました。会長はその数字を見て、年に一度は新聞発表をし、業界のPRなどを続けていたのも活動の思い出として残っております。

### 日本製の優位性知る

寺崎 正悦 氏  
寺崎ゴム工業株式会社



日本ゴム精練工業会が発足から25周年を迎えたこと、誠におめでとうございます。

この工業会は、1989年に消費税が導入されることが決まり、業界全体でどのような対処をしていくべき良いのだろうかということを話し合っていく場として、株式会社東武ゴムセンターの上野氏、株式会社フコクの秋永氏、三洋ゴム工業株式会社の君島氏が中心となって発足致しました。私ども寺崎ゴム工業株式会社は第2回目の総会より参加させて頂いております。

発足当時はバブル時代の全盛期にあり、各社景気も良く、忙しく生産が追い付かないという状況がありました。その中でアメリカ視察も行われ、ゴムの町アクロンへ行き、グッドイヤー博物館、現地CMBメーカーの視察や懇親会などが行われました。当時のアメリカのCMBメーカーは

日本と比較して品質管理が悪く、改めて made in Japan の素晴らしさを再確認することができたという視察旅行となりました。

あれから時代が変わり、日本シーエムビー株式会社の解散、株式会社フコクの脱会、株式会社東武ゴムセンターの閉鎖などがあり、この会も少しずつ形を変えながら続けてきました。現在は加盟会社24社になり、総会、臨時総会を年に一回ずつ開催しております。

総会の議題としましてはMSDSの作成方法や、産業廃棄物の問題などを主なテーマとして話し合いを行っております。また、加藤事務所の加藤氏に協力をお願いしゴム資材の最新動向などをお話しいただき勉強させて頂いております。

近年、原油の値上がり、円高、リーマン・ショック、東日本大震災、さらに今年は消費税が引き上げられるなど、国内製造業にとって厳しい状況が続いております。しかし、日本ゴム精練工業会員各社が協力し、親睦を深め、情報交換の場として活用し乗り切つて頂けると信じております。

最後に、日本ゴム精練工業会の益々の発展と加盟各社の益々の発展を祈願してお祝いの言葉とさせて頂きます。

# 25年のあゆみ

## NEWS

### 歴代会長会社一覧と精練業界動向、ゴム業界及び社会動向

年度	会長	精練業界動向	ゴム業界及び社会動向
平成元年 (1989)	三洋ゴム工業 君島達五会長	2月15日の設立総会を経て4月から30社で正式に設立。初代会長に君島達五三洋ゴム工業社長が就任。	ゴム製品の生産及び出荷額過去最高を記録。ゴム関連企業も空前の増収増益に。しかし人手不足も深刻に。
平成2年 (1990)	三洋ゴム工業 君島達五会長	景気好調を追い風に、ゴム精練業界もフル操業で、年間出荷量は17-18万トンに。	ゴム製品の生産が3年連続で過去最高を記録。しかし石油関連原材料価格が高騰し、収益面を圧迫。
平成3年 (1991)	三洋ゴム工業 君島達五会長	自動車減産の影響で、精練業界も低調に推移。	バブル経済崩壊で、ゴム製品の生産及び企業収益が頭打ちに。
平成4年 (1992)	三洋ゴム工業 君島達五会長	理事会社制度設置。フコク、CRK、角一ゴム工業の各社が就任。	不況に明け不況に暮れた1年になり、ゴム業界も2年連続のマイナス成長。工業用ゴム製品生産が大幅減。
平成5年 (1993)	ゼオンボリミクス 若月英雄会長	生産量は前年比20-30%減で推移。4月の総会で君島達五会長退任し、ゼオンボリミクス若月英雄社長が会長に。	自動車など各需要業界不振で、ゴム業界も不況の1年に。雇用調整助成金の業種指定が続出。
平成6年 (1994)	ゼオンボリミクス 勝山泰治会長	総出荷量は前年の20万トンから18万トン程度に減少。勝山泰治ゼオンボリミクス専務が会長に。	ゴム製品生産が7月に2カ月ぶりに増加。リメハンメル冬季五輪開催。細川・羽田内閣辞職し、村山内閣発足。
平成7年 (1995)	ゼオンボリミクス 勝山泰治会長	自動車生産減で、5月頃から精練生産減少に。このため総出荷量は18万トン前後に留まる。	1月17日に阪神大震災、3月25日に地下鉄サリン事件発生。阪神大震災では神戸地区のゴム企業も多く被災。
平成8年 (1996)	ゼオンボリミクス 浦田英之会長	需要回復の兆し無く低迷。総出荷量18万トン前後に。3月にゼオンボリミクス浦田英之社長が会長に。	ゴム製品出荷量は回復したものの、価格下落で売り上げは伸びず。タイヤ各社がオープン価格を導入。
平成9年 (1997)	ゼオンボリミクス、 東武ゴムセンター	下期以降生産減少傾向となり、総出荷量は18万トン前後に。4月の総会で上野純一東武ゴムセンター社長が会長に。	自動車用タイヤ牽引しゴム製品生産は2年連続で過去最高になるも、価格下落で売り上げは伸びず。
平成10年 (1998)	東武ゴムセンター 上野純一会長	上野純一会長のもと、設立10周年記念祝賀会を4月17日に東京・丸の内ホテルで開催。	ゴム業界は需要減少、価格下落、業績悪化で特に国内市場は戦後最大規模の落ち込みに。アサヒコーポレーションが経営破綻。
平成11年 (1999)	東武ゴムセンター 上野純一会長	需要回復せず厳しい1年になり、総出荷量は16万トンを割り込む。	住友ゴム工業とグッドイヤーがグローバルアライアンス締結、日産とルノー提携など90年代最後の年も大激動の年に。
平成12年 (2000)	東武ゴムセンター 上野純一会長	中盤以降需要回復に。しかし総出荷量は16万トンを割り込む。さらに原材料値上げが利益を圧迫。	ゴム製品生産が新ゴム量で145万トンと過去最高に。しかし石油系製品の値上げ相次ぐ。
平成13年 (2001)	東武ゴムセンター 上野純一会長	自動車やIT関連ゴム製品需要減で3-4月頃から生産量はマイナスに。このため総出荷量は13万トン強程度と大幅減に。	ゴム業界をIT不況と、米同時テロ発生が直撃し、特にタイヤ以外の企業業績が急速に悪化。
平成14年 (2002)	東武ゴムセンター 上野純一会長	総出荷量12万7000トン程度まで大幅減に加え、各種原材料値上げが利益を圧迫。	輸出好調でタイヤ生産過去最高だが、工業用品の汎用品市場不振。中国進出加速し国内空洞化進む。
平成15年 (2003)	東武ゴムセンター、 エラストミックス	下期以降需要回復傾向で、総出荷量は前年並みに。4月の総会で近藤素英エラストミックス社長が会長に就任。	景気回復により、ゴム製品生産は新ゴム量で148万トン前後と過去最高に。
平成16年 (2004)	エラストミックス 近藤素英会長	生産量回復傾向になり、総出荷量は13万トン弱に増加。しかし原材料費が高騰し負担増に。	各種原材料が相次いで値上げされ、ゴム企業の収益を圧迫。主要企業の中国進出ほぼ出揃う。
平成17年 (2005)	エラストミックス 近藤素英会長	会長会社輪番制度を導入。エラストミックス→ゼオンボリミクス→フコク→三洋ゴム工業。総出荷量は13.5万トン前後に。	景気回復により、ゴム業界も堅調に推移したものの、原材料価格がさらに高騰。
平成18年 (2006)	エラストミックス、 ゼオンボリミクス	エスイーシー化成入会。総出荷量は前年比若干増。エラストミックス近藤素英社長→伊丹良彦社長→ゼオンボリミクス堀江敏夫社長と会長交代。	ゴム業界、原材料価格高騰と高止まりに苦慮。特に天然ゴムが26年ぶりに300円に高騰。
平成19年 (2007)	ゼオンボリミクス 大貫利和会長	総出荷量は横ばいの13.5万トン前後に。ゼオンボリミクス社長交代に伴い7月1日付で大貫利和社長が会長に。	ゴム業界を原油・ナフサ価格高騰に伴う石化系原料価格上昇が直撃。
平成20年 (2008)	ゼオンボリミクス 山本誠会長	下期需要減で総出荷量は前年の13.5万トンを下回る。ゼオンボリミクス社長交代に伴い6月に山本誠社長が会長に。	景気減速により、ゴム業界7年ぶりに新ゴム消費量がマイナス。
平成21年 (2009)	ゼオンボリミクス、 三洋ゴム工業	フコクと九州ゴム加工が脱会。総出荷量は10万トン割れに。4月の定期総会で君島秀夫三洋ゴム工業社長が会長に。	リーマン・ショックによる世界的な不況で、ゴム製品の生産が30%減前後と史上最悪に。
平成22年 (2010)	三洋ゴム工業 君島秀夫会長	需要回復を受け、比較的の堅調に推移し、総出荷量は12万トン台程度に回復。	ゴム製品生産は回復するものの、リーマン・ショック前の08年対比で80%程度に。天然ゴムが高騰し上場以来高値更新。
平成23年 (2011)	三洋ゴム工業 君島秀夫会長	東日本大震災前後は落ち込むも下期回復し、総出荷量は前年同水準の12万トン弱に。	3月11日に発生した東日本大震災、10月のタイ洪水でゴム企業も影響受ける。
平成24年 (2012)	三洋ゴム工業、 ゼオンボリミクス	会長任期を1年に改定。総出荷量は12万トン台半ば。4月に山本誠ゼオンボリミクス社長に会長交代。	中国の景気減速及び反日不買運動でゴム業界も打撃受け。このため企業業績の下方修正相次ぐ。
平成25年 (2013)	シンコー 金原良和会長	小暮ゴムが入会。下期以降需要回復だが総出荷量は11万トン台後半に。4月に金原良和シンコー社長が会長に。	円安と外需でゴム企業の業績は回復。海外進出も加速するが、中国への投資は減少。
平成26年 (2014)	CRK 箕輪裕方会長	設立25周年記念祝賀会を静岡県掛川市のヤマハリゾートつま恋で開催。CRK箕輪裕方社長が会長に。	4月1日から消費税8%を導入。



25年のあゆみ

NEWS

# ゴム産業を支えた25年

第2159号 第三種郵便物認可

インタビュー



伊丹良彦氏  
日本ゴム精練工業会会長

週刊 ニュース 東京 関西

会員

## 日本ゴム精練工業会 会員名簿 (本社・代表)

	会社名	代表者	氏名	本社所在地	TEL	FAX
1	エスイーシー化成(株)	代表取締役	重弘 和彦	山口県周南市室尾2-10-1	0834-63-5577	0834-63-5311
2	(株)エラストミックス	代表取締役	中村 栄太郎	三重県四日市市川尻町100	059-345-5965	059-346-5038
3	開進ゴムコンパウンド(株)	代表取締役	長谷部 韶	東京都墨田区墨田2-6-8	03-3614-5161	03-3619-4511
4	角一ゴム工業(株)	代表取締役	宮田 直樹	神戸市西区玉津町新方字東方257	078-911-8685	078-911-8687
5	(株)カワイチ・テック	代表取締役	川口 秀一	東京都葛飾区東立石3-27-1	03-3691-3317	03-3696-6920
6	(株)ケースリー	代表取締役	小島 恒彦	東京都中央区日本橋茅場町1-7-7	03-3667-4530	03-3639-4963
7	小暮ゴム(株)	代表取締役	小暮 勝彦	埼玉県羽生市大字下手子林1422	048-565-2311	048-565-3264
8	埼光ゴム(株)	代表取締役	加藤 文男	埼玉県越谷市増森110	048-962-6546	048-966-3371
9	三洋ゴム工業(株)	代表取締役	君島 丈彌	東京都北区中十条3-31-14	03-3908-5234	03-3908-7222
10	CRK(株)	代表取締役	簗輪 裕方	群馬県高崎市小八木町306	027-362-7510	027-362-7561
11	(株)白井シーエムビー	代表取締役	山下 亨	千葉県白井市平塚2632-18	047-491-1571	047-492-2236
12	伸越ゴム(株)	代表取締役	筒井 大介	東京都中央区日本橋箱崎町27-2	03-5641-6681	03-6541-6686
13	シンコー(株)	代表取締役	金原 良和	大阪府八尾市竹淵東3-147	06-6709-6661	06-6709-6652
14	盛上ゴム工業(株)	代表取締役	天田 裕彦	千葉県市原市五井東1-22-8	0436-22-5556	0436-22-5558
15	ゼオンポリミクス(株)	代表取締役	山本 誠	滋賀県大津市石居1-11-1	077-546-1223	077-546-6099
16	ダイヤゴム化工(株)	代表取締役	尾崎 好泰	大阪府八尾市渋川町6-1-1	072-994-0200	072-994-0673
17	寺崎ゴム工業(株)	代表取締役	寺崎 晃	茨城県猿島郡境町伏木1341-1	0280-86-5883	0280-86-7159
18	ニチダイ(株)	代表取締役	谷端 孝彦	大阪府東大阪市若江東町6-6-2	06-6724-4567	06-6732-1183
19	(株)ノブカワ	代表取締役	上野 和美	東京都千代田区神田鍛冶町3-3	03-3258-5888	03-5295-6451
20	宝来ゴム加工(株)	代表取締役	宮崎 芳高	埼玉県加須市戸崎308-12	048-073-2213	048-073-1439
21	三福工業(株)	代表取締役	三井 福次郎	栃木県佐野市植下町1248	0283-23-4154	0283-23-4152
22	(株)モリセイ	代表取締役	毛利 益巳	東京都墨田区立花3-23-14	03-3618-1156	03-3618-1163
23	(株)モリタゴム	代表取締役	森田 一博	東京都足立区綾瀬7-2-27	03-3605-8633	03-3628-3544
24	(株)モルテンポリミクス	代表取締役	赤田 浩之	広島県山県郡北広島町川東氏神2046	0826-72-2430	0826-72-3985

---

### 日本ゴム精練工業会 設立25周年記念

編集委員会

協力 株式会社ポスティコーポレーション